

令和3年度 学校評価報告

草加市立川柳中学校
(令和4年1月27日作成)

1 学校教育目標	
<p>【賢く】 ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒 ・自分の思いや考えを伝えられ、良識ある判断ができる生徒</p> <p>【優しく】 ・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒 ・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒</p> <p>【逞しく】 ・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒 ・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上 ・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成 ・生徒の自立を促す学年 ・学級経営の充実・学校力を高める校内研修の充実 ・潤いのある学校環境の整備と美化の推進 ・豊かな人間関係の育成 ・保健・給食指導の充実及び体力の向上 ・進路指導・キャリア教育の充実 ・一人ひとりの自立を引き出す特別支援教育の推進 ・読書活動の充実 ・学校防災体制の確立と安心・安全な学校づくり 	<p>成果</p> <p>○昨年度は授業改善に力を入れた。「学力向上のための努力や工夫をしている」の保護者評価(A+B)は、3%上昇の88%埼玉県学力・学習状況調査では、伸びた生徒の割合が県平均を超える結果となった。</p> <p>課題</p> <p>●保護者の願いである「基礎的な学力をつけてほしい」「思考力・判断力をつけてほしい」「豊かな心・道徳性を育ててほしい」を達成するために、今後さらに指導力の向上と研究修養を行う必要がある。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○コロナ禍により、思考錯誤を行う場面が多々あったが、教職員の協働により、教育目標を目指す教育活動が行われた。</p> <p>●重点目標の共有化をさらに強めて、チームで取り組める組織を目指していく。</p> <p>●適所への適材配置による校務分掌の不均衡化が課題である。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○計画的な校内研修が行われた。特に、前年度B判定の人権教育や特別の教科道徳等、専門家を招いて行い教員の指導力を高めた。</p> <p>●勤務時間との関係もあり、時間の捻出が困難ではあるが、重点目標に的を当てた校内研修をさらに going to 行っていく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○2年前に起こった救急体験を振り返り、本校の救命救急体制を全職員で更新・共有することができた。</p> <p>○コロナ対応について、管理職と養護教諭を中心にガイドラインに沿った指導を全職員が共通理解して行うことができた。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○職員一人ひとりが、個人情報の校内規定を遵守し、厳正な情報管理に努めている。</p> <p>●雨天時におけるトイレの詰りは、環境衛生上早急に改善する必要がある。来年度実施予定である。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<p>○学校から配付される各種たよりの内容充実、ホームページの更新、学校運営協議会の実施に努めた。</p> <p>●学校行事の保護者参加や地域の方との交流が中止となり、生徒の活躍を発信できる場が減ってしまった。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○復元をテーマに、コロナ禍でできる取り組みを担当中心に組織的に行えた。結果、アフターコロナでも稼働できる体制が整った。</p> <p>●さらに15年間を通じたカリキュラム編成の推進を行い、本校の実態に合った行事計画や年間指導計画を目指していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての教職員が教育目標を意識した教育活動を行い、学年学級経営に生かした。 ○コロナ禍ではあったが、年間計画を見直し、教育課程の再編成を適宜行えた。 ●今後さらに学校内外の資源を見つけ、繋げていく15年間を通じたカリキュラムの編成を進めていく必要がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で制限がある中だったが、協調学習やタブレット端末を活用したクロストークも行き、授業改善が進んだ。 ●生徒の学びや教員の指導力が高まるような3観点評価について、さらに研修を重ねていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間を学年ごとに帯で位置づけ、学年全職員で授業を行えた。 ○「道徳教育の抜本的改善充実に係る校内研修」では専門講師をお招きし道徳的実践力の向上を図った。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍ではあったが、学校行事に向けて準備活動が行えた。特に生徒会は活躍の場を沢山確保することができた。 ○「川中フェスティバル」を位置付け、生徒主体のパフォーマンス発表が行えた。生徒の自己肯定感・有用感を育む取組となった。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の見直しを行いながら、指導内容を充実させていくことができた。 ●地域の人材・物的資源を見つけて、今後さらに活用していく必要がある。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部会のファイルを回覧し、情報共有を行っている。配慮を要する生徒や校則等、教員間で指導のずれがない。 ●積極的な生徒指導が行えるように、さらに学校内外の資源に目を向けて、チーム体制を構築していく。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○上級学校訪問の代替として行った進路説明会では、双方対面型オンライン開催となり、コロナ禍でも工夫して進路指導を行うことができた。 ●職場体験は2年間通じて行っていない。働くことの厳しさや充実感等、生きていく上で大切な教育を補充していく必要がある。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の正しい理解と認識が深められ、行事等を通して通常学級との交流が深められた。 ○ICT支援員と連携し、計画的なICT機器の活用に取り組めた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書と連携し、図書室でのイベントを実施、また朝読書時の学校図書活用も実り、来室する生徒数の増加と読書習慣の促進が図れた。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修では、クロームブックの使い方についての研修を行い、教員のスキルアップを図ることができた。 ○学校行事や校内研修、また各種会議等でもオンライン開催を行い、GIGAスクール教育が加速した。

①人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修では、同和問題とLGBTQについて、専門的な知見を学び、教育力を高めた。 ●カリキュラム編成の視点から、各教科との関連等、今後は教科横断的な取組や位置づけを目指す。
-------	--	---	--

(様式2・中学校用③)

草加市立川柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
特色ある学校づくり	幼保小中一貫教育連携	コロナによる協議会等の中止や連携活動の停滞、人事異動による引継ぎ不足が原因で、活動内容が不透明であった。これを復元する。	A	○3回の連絡協議会を実施し、本年度実施連携活動を精選した。また、担当毎に長を決め、オンライン会議等を開き、これまでの活動の確認や本年度実施活動について試行錯誤を行い、復元することができた。
	GIGAスクール教育の加速	緊急事態宣言下でのオンライン学習では、生徒の学びを止めないように、双方オンライン型の学習体系を行った。	A	○全職員でオンライン学習に取り組み、Google Meet, Classroom, formの使い方等を校内研修に位置付け、ICT活用スキルを向上させ、生徒の学びを保証できた。また、教材教具の共有や学習の様子を見学し合い、改善し質の向上も図れた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

今年度も生徒の生活は落ち着いており、活力のある学校生活を送っている。朝清掃と朝読書の効果もあり、規律ある生活が行われている。また、委員会活動、行事、部活動にも積極的に取り組んでいる。課題である「学力向上」も、研究と研修を重ね全職員で取り組んできた。また「特別の教科 道徳」における指導法や評価を視点を置き、大学教授を招いて研修会を実施した。各学力学習状況調査においては、まだまだ課題があり、しっかりと検証し取り組んでいきたい。またコロナ禍ではあったが、部活動や学校行事に向ける生徒のエネルギーと団結力は素晴らしく、活力に溢れた生徒の姿や教員との信頼関係に、保護者や地域から賞賛を得ている。毎朝、正門前横断歩道では地域の方が横断指導を行ってくださっている。教員の勤務時間の問題や部活動の地域移行等、地域が学校(生徒)に対して何ができるのか親身になって考えてくださる、応援していただける学校である。

6 次年度の改善策

不登校生徒の解消が本校の大きな課題である。生徒指導上の非行問題はほとんど見られないが、教育相談的な問題が解消されない。学校への登校意欲を阻害している要因を追求し、課題解決に向けて学校・保護者・地域・外部の諸機関とがチームで取り組んでいくことが重要であると考える。

- ① 個々の生徒の悩みをしっかりと聞き丁寧な対応を心がける。
- ② 適切かつ迅速な初期対応を重視する。
- ③ さわやか相談員やスクールカウンセラーとの連携を深めながら、教育相談部会を充実させ、様々な角度からアプローチし、課題解決に向け取り組む。
- ④ 家庭や地域との連携を強化する。保護者会・各種だより・三者面談等を通して、積極的に家庭と関わり、協力を得て学校の教育相談組織力の向上を図っていく。

学力の向上については学力・学習状況調査の結果を活用し、学力向上をねらった授業改善を行い、PDCAサイクルを教員がしっかりと回していく事が重要であると考えます。